

2023年度浪漫学園推進体制

<浪漫学園実行委員会>  
 顧問 服部 晃 (岐阜女子大学アーカイブ担当)  
 委員長 安藤 範和 (岐阜県立恵那南高等学校長)  
 副委員長 安藤 一博 (恵那市立明智中学校長)  
 実行委員 松井 克仁 (明智小学校長)  
 三島 祥江 (恵那特別支援学校長)

読み聞かせWG  
 (担当: 明智小学校)

地域研究WG  
 (担当: 明智中学校)

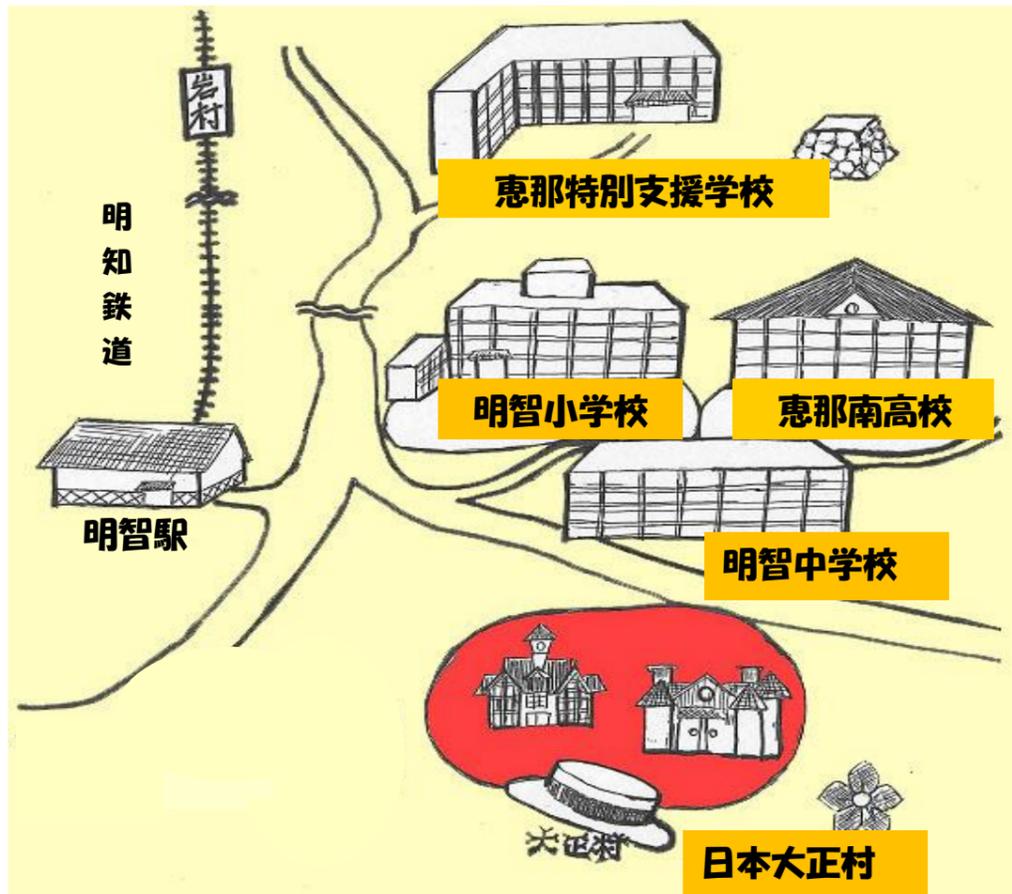
学校行事WG  
 (担当: 明智中学校)

特別支援WG  
 (担当: 恵那特別支援学校)

道徳WG  
 (担当: 恵那南高等学校)

学習活動WG  
 (担当: 恵那南高等学校)

自然観察WG  
 (担当: 恵那南高等学校)



2023年度

# 浪漫学園



<浪漫学園の経緯>

- 平成19年10月15日 第1回「浪漫学園」打合せ会にて理念が打ち出される。
- 平成20年 7月30日 第11回「浪漫学園」推進委員会にて具体的な活動が決定する。
- 平成20年10月30日 第14回「浪漫学園」推進委員会より算数・数学WGの活動が始まる。
- 平成21年 9月 2日 恵那南高校学校祭にて中間発表会を行う。
- 平成21年11月15日 恵那産業博覧会にて『浪漫学園構想』と題して、生徒が発表をする。
- 平成22年 4月20日 第27回「浪漫学園」実行委員会にて、組織を明確にする。
- 平成22年10月22日 岐阜県の教育関係機関に対して、「浪漫学園」発表会を実施する (会場: 恵那南)
- 平成24年11月 9日 第17回全国高等学校総合学科教育研究大会にて「浪漫学園」パネル発表を行う。
- 平成25年 5月15日 東海地区総合学科高等学校長協議会にて「浪漫学園」の講演を行う。

昔は近所の子ども同士が年齢に関係なく一緒に遊んだものでした。そしてその遊びの中から、人間関係やコミュニケーション能力を身に付けました。時には遊びの中から発見があり、その興味関心を学校生活に持ち込み、自己の向上や将来の仕事にもつながりました。こうした異年齢間での関係づくりが今の世の中には欠けている、この思いは多くの人を感じていることだと思います。

幸いにも、この恵那市明智町には、明智小学校、明智中学校、恵那南高等学校が隣接しています。さらに地元にはボランティア活動を推進する日本大正村、少し離れてはいますが、岩村町には恵那特別支援学校があります。この地域性を生かして現代社会に必要な、「互いに学び合う力」を身に付けることができれば、そんな思いが「浪漫学園」を立ち上げさせたのです。既成概念に捕らわれない自由な発想、このことは教員をも育てていきます。小・中・高・地域が結びつき、互いに交流し、学びあうことで校種間・世代間のギャップを埋め、さらにそれに参加する者が育っていく、これが「浪漫学園」の理念です。

明智小学校では、週2回、朝の10分間の読書を行い、さらにPTA母親委員会の主催で、保護者の読み聞かせを、年に4回行っています。また、恵那南高校福祉保育系列では、介護や保育の学習の中で言語表現技術の取得を目指しています。そうした背景の中で、読み聞かせWorkingGroup（以下WG）は発足しました。読み聞かせは5月と2月の2回実施しています。5月は3年次生が行い、2年次生がそれを見学します。2月には2年次生が行い、読み聞かせを引き継ぎます。高校生にとっては技術取得と児童理解のよい機会となります。小学生にとっても、保護者や教師による大人の読み聞かせとは違い、お兄さんやお姉さんが行くと、楽しみながら物語に親しむことができ、とても有意義な時間となっています。

この異年齢間での交流は、単なる技術取得や絵本に親しむだけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることができます。小学生と高校生が互いの行為を受け入れ、思いやる。姉弟愛の原点がそこにはあります。



## 読み聞かせ

当初は、明智小学校の3年生と、恵那南高校3年次生の「地域研究」（学校設定科目）の選択者が一緒になり、地域の歴史理解を深めることを目的とした活動を行いました。

平成28年2月に、明智中学校の1年生と恵那南高校の2年生が「明智町＝大正村をよくするぞ！！プロジェクト」として日本大正村を散策し、グループで話し合い、「ロマン館で結婚式を開催してはどうか」などを明智町に提言をしました。

平成29、30年には明智町の魅力を探して、「マイマイアケチ」のホームページに「日本大正村の撮影スポットベスト10」と題して、観光客に対する撮影スポットはどこがいいのか、日本大正村の事前学習を行い、街並みや施設の写真を撮影し、地域の方々に発表しました。今後もこの活動を継続しながら、地域の理解と地域の情報発信に携わりたいと考えています。



## 地域研究



## 特別支援

平成23年より特別支援教育WGが立ち上がり、「地域社会と一体となった異校種間での共同、協働の学びから、一人一人に応じたきめ細かな教育的支援を積み上げるにより、地域に貢献する『地域社会人』を育てる」という理念で始めました。地域支援の一環として明智町の各学校と連携して、病障がいのあるに関わらず特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒への支援について、恵那特別支援学校のセンター的機能を利用しながら取り組んでいます。小中高等学校合同職員研修会、居住地校交流学习、特別支援教育等に関する情報提供・相談会、福祉医療労働などの関係機関との連絡・調整等、様々な支援・活動を実施してきました。今後も、個に応じたきめ細かな教育的支援と、生徒やその保護者に対して就学前から卒業後まで一貫した支援を行い、教員の専門性の向上や関係機関との連携を図った体制で継続して活動していきます。

# 「浪漫学園」

# WorkingGroupの紹介



## 学校行事



学校行事WGは、平成20年に、明智小学校や吉田小学校の児童が高校の文化祭を見学することから始まりました。平成23年度より、小・中・高の合同サミットを開き、それぞれの学校の取組を紹介したり、課題を話し合いました。現在は恵那特別支援学校を加えた4校で行っています。

合同挨拶運動は、現在も年に2回程度実施しています。場所は明智小学校前で、年齢の壁を越えた風景がそこにはあります。

平成23年11月には、岐阜県美術館と学校との連携行事である「スクールミュージアム」も行いました。岐阜県美術館職員の方が解説をされ、異校種間にもかかわらず、感動を共有することができました。

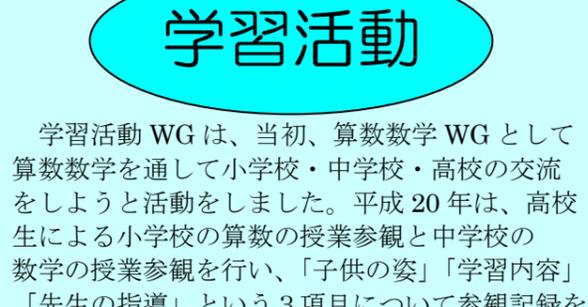
平成27、28年12月、中・高合同の芸術鑑賞会を明智かえでホールで行いました。



## 道徳

道徳WGは、平成23年より発足した新しい取組です。具体的な活動は、平成4年から始まった「大正村掃除に学ぶ会」への参加で、「恕の心」を身に付けることを目標にしています。恵那南高校や明智中学校は道徳教育の研究を行っており、その実践でもあります。平成28～30年の「大正村掃除に学ぶ会」では、明智中学校の全校生徒と恵那南高校全校生徒が参加をしました。トイレ磨きや交流を通して、自らも磨くことができました。

今後は、恵那南高校、恵那特別支援学校の「地域清掃」をこの道徳WGとして捉えて活動します。



## 学習活動

学習活動WGは、当初、算数数学WGとして算数数学を通して小学校・中学校・高校の交流をしようと活動をしました。平成20年は、高校生による小学校の算数の授業参観と中学校の数学の授業参観を行い、「子供の姿」「学習内容」「先生の指導」という3項目について参観記録を取りました。平成20～23年の3年間、高校1年生に、小中の「数と計算領域」から出題し、その問題を評価させるとともに正答率に対する分析を行いました。平成26年は、「昔の遊びにチャレンジ」として、身の回りにあるもので遊んだり、自分たちで作って遊ぶように学びを発展させ、小学生に教えながら一緒になって遊びました。平成28年は「英語学習」の深化という観点から英単語のゲームに取り組みました。平成30年から令和4年は、「土雛づくり」を行いました。



## 自然観察

今、環境教育は全ての校種において行われており、自分の住む地域を知り、保全することは大切なことです。自然観察WGは、昔ながらの川遊びに着目し、小・中・高それぞれの特性を生かした活動として発足しました。小学校では「総合的な学習の時間」、中学校では「理科」、高校では「理科基礎」の科目を利用して実施しています。平成21年から始め、「カワゲラウォッチング in AKECHI」と称して水質調査ならびに汚水処理で活躍する微生物の観察を行っています。平成23年7月には、地元の大正100年祭「大正村おもしろ科学子ども広場」に、明智中学生とともに参加し、科学ブースを出展しました。

私たち教員は、この活動を通して垣間見る生徒や児童の表情に、教育における無限の可能性を感じさせられるとともに、教育の楽しさを実感しています。

